

あすの暦  
日2月24日  
日出06:08  
日入18:30  
月出01:55  
月入12:12  
満潮04:02  
13:38  
干潮10:00  
21:40  
月令22:06

# 今日新聞

3月26日

木曜日 第11577号

平成4年  
(西暦1992年)

住みよい地域・美しい郷土建設を念願する  
今日新聞社は、公害をなくすため昭和42年から完全写真植字・オフセット方式に改め、52年からオフセット輪転機を採用しました。

日刊  
日曜日と祝  
祭日を除く

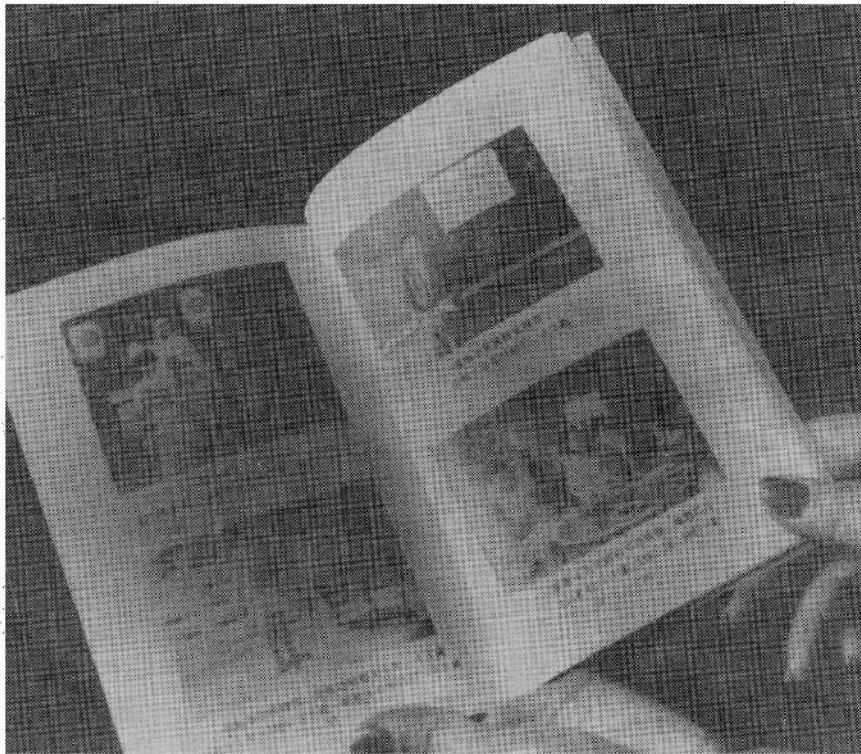
月決 1,000円  
郵送 1,280円  
単価 35円

昭和30年1月7日第3種郵便物認可  
発行所 今日新聞社  
所在地 別府市野口元町8番27号  
〒874 別府局 0977(代)5171  
郵便振替口座番号(下関) 5171

## 温泉歴史博物館を別府にと遺族

# 残された膨大な資料

## 郷土史家・安部巖さんの追悼集発刊



思い出の写真も掲載されている追悼冊子



故安部巖さん

市内の小学校長や文化財調査員などを務め、郷土史研究者として知られていた安部巖さん(上原町三十四)が六十八歳

で亡くなって二年八カ月。このほど妻のタエコさん(六)と長男の浩之さん(三)が、追悼のための小冊子を作って身近な人達に配った。

『伝記、安部巖——其一、追悼記録編』という題で、B6版白ペーシ。内容は写真、略歴の年表、関係者の弔辞からなっていて、限定百部印刷で三

百円。浩之さんの書いた前書きによると、巖さんは郷土資料以外にも教員時代の記録等、大量の個人的な記録を残している。そこで巖さんの伝記をまとめてみよう、まずこの「追悼記録編」を出し「本編」は後日完成させたいという。

「何でも残しておくんだ」と浩之さんが語ったというように、巖さんの集めた資料は膨大な量。現在、自宅裏にある私設の「別府教育史料館」に運び込まれているが、その一つは教育関係資料。

明治時代の教科書や教師用の指導書を始め、古い卒業証書や教員等珍しいものばかりだ。特に目をひくのが「別府市教育資料」。長年小学校の教師を務めた巖さんが、自身の実践記録や学校要覧を製本し、百巻にまとめたもの。

もう一つは、郷土研究の基礎資料として巖さんが足で集めた古文書の写しや古い写真(原稿等)、別府市内各地の歴史を知ることのできる貴重な膨大な資料。興味深いものばかりで「ついつい時間を忘れてしまいます」とタエコさん。また、「別府温泉湯治場大事典」など巖さんの著書の残部もある。

生前精力的に執筆を続けていた巖さんには、出版を待つばかりの大量の原稿も残されている。浩之さんによると、「別府教育史」はいつでも出版できるように仕下がっている。また「別府寺院史」も出来上がっているが、

浩之さんが調査・補足をしているという。その他「神社史」「公共施設史」「河川史」など千数冊の原稿があり、タエコさんも浩之さんも「お金さえあれば」と残念がる。

これらの膨大な資料について浩之さんは現在、整理をしているところ。将来は「別府温泉歴史博物館」とでもいう形で、一般の人に利用してもらいたい」と抱負を語る。別府市には郷土史を知ろうとしても、適当な施設はない。そのため、県内外から「教えてほしい」と問い合わせが安部さん宅に来るといふ。

当然のことながら個人の力には限界がある。この貴重な資料が本当に生かされるように、別府市も動くべきではないだろうか。「コンベンションホールの計画にも、郷土資料館のようなものが入っていないのはおかしい」と浩之さんも語っている。

なお、安部巖さんが少年時代、旧別府中学校に枝郷の奥からちようちんを手に山道を小柄な体で歩いて十六、毎日五年間通学した話は有名で、努力の人として知られている。